

学部 / 看護専門領域 / 健康・疾病・障害の理解

科目コード：130011

# 人間病態学演習 I Human Pathology Practicum I

担当教員	今井 美和				
実務経験					
開講年次	1年次後期	単位数	1	授業形態	演習
必修・選択	必修	時間数	30		
Keywords	病理、病因、微生物、感染、予防、感染症、免疫、炎症				
学習目的・目標	目的：感染症、免疫疾患、炎症性疾患の病態を形態観察を通して理解する。 目標：病理学および微生物学の専門用語を用いて、これらの病態を説明できる。				
授業計画・内容					
回	内容				
1-2	オリエンテーション 病因： 紫外線、放射線、タバコ、アルコールにより引き起こされる疾患				
3-4	微生物学総論： 日和見感染、菌交代症、人獣共通感染症、新興感染症、再興感染症、院内感染、食中毒、性感染症、輸入感染症、感染症法、予防接種、滅菌、消毒、化学療法、薬剤耐性				
5-10	感染症： 細菌感染症 ウイルス感染症 プリオン病 真菌症 原虫症				
11-15	免疫疾患： アレルギー、移植免疫、自己免疫、免疫不全 炎症性疾患： 肺炎、消化性潰瘍、クローン病、潰瘍性大腸炎、肝炎、肝硬変、膵炎など				
教科書	カラーで学べる病理学（ヌーヴェルヒロカワ） ビジュアル微生物学（ヌーヴェルヒロカワ） 人間病態学（病気の成り立ち）プリント 人間病態学演習 I プリント				
参考図書等	ルービン カラー基本病理学（西村書店）				
評価指標	定期試験の受験資格：履修登録をしている。授業回数の2/3以上出席している。 定期試験の結果 80% + レポート 20% で評価する。				
関連科目	解剖生理学、代謝と栄養、人間病態学（病気の成り立ち）、人間病態学演習Ⅱ、疾病障害論、臨床薬理学、公衆衛生学				
教員から学生へのメッセージ	解剖生理学、代謝と栄養、人間病態学（病気の成り立ち）で学んだ基礎知識を身につけたうえで、授業に出席してください。 授業の予習、復習を行い、確実に知識を身につけて下さい。				